

特 243

125

第三三八號
年十二月

ニウギニアの動物

(譯書)

財団法人南洋經濟研究所



始



は し が き

本資料は蘭書モルツケン協會編纂「ニウギニア New Guinea. 1935」中第一卷第六章を全譯したものである。譯者 越村長次
尙ニウギニア動物に關して既刊の左記二資料があるから參照せられたい。

- 第二八八號 ニウギニアに於ける動物土名 (新村太朗著)
- 第三二三號 ニウギニアの動物に就て (同)

昭和十八年十二月十一日

財團法人 南洋經濟研究所

特243
125

モルツケン協會編「ニウギニア」第一卷第六章ニウギニアの動物

アムステルダム動物博物館長 プロフ・ドクトル・エル・エフ・デ・ポーフオールト

ニウギニアの動物(譯書)

「ニウギニア」の動物界は、蘭印濠洲群島の西部諸島の夫れと異なる多くの特色を有して居るが、此相異は生態學上僅かに部分的に説明し得る所にして、地理的、歴史的諸要因こそ此差異を説明する上に主要なる役割を充たすものなり。簡言せんか、「ニウギニア」は曾て濠洲大陸の一部を成し、此大陸は既に久しく他の世界より隔離し居りたるを以て、隔離後に進化し、且つ濠洲大陸に分布し得たる多くの種類の動物は、濠洲大陸に達し得ざるに至れり。他面隔離前濠洲大陸に棲息したる動物は同地にて依然棲住し得ると共に、若き種屬の爲め他所に驅逐せらるゝに至れり。従つて「ニウギニア」の動物の特徴とも云ふべきは、他所にて單に化石のみの知らるゝ(遺物)動物の出現と、他所にて大なる分布を示す他の動物の缺如とに在り。此事は自然陸地及び淡水動物及び又其の分布が海に依り妨げらるゝ動物にのみ適用せらるゝ所にして、海の動物は此特色を示さず。「ニウギニア」の海洋動物は、大部分蘭印群島及び太平洋の熱帶地方の何處にか發見せらるる種類より成る。

従つて茲には陸地及び淡水動物と海洋動物とを別箇に説かんと欲す。

陸地及び淡水動物

哺乳動物 此種類には、今し方述べたる動物の特質を極めて明白に知る所なるが、「ニウギニア」は濠洲と共通に、猿、食蟲動物、猛獸、嚙齒類動物及び有蹄類動物（但し人間の移入したる山豚を除く）は棲息せず。簡言せんか、凡ての「若き」種屬を缺く。ただ、例外は蝙蝠にして、果實を食する「オホコホモリ」(Macrotropis) 竝に小昆虫を食する種類 (Microchiroptera) は「ニウギニア」に在り。之等の哺乳動物は島より島へと飛翔するを以て、其繁殖が海に依り妨げられざることは怪しむに足らず。

今し述べたる蝙蝠を除き「若き」哺乳動物の内には、單に小鼠及び大鼠及び既に述べたる山豚あり。山豚は家畜化する豚の類縁にして、之れが輸入は人間の爲したる所にして、小鼠、大鼠は他の方法に依る。家鼠及び船鼠は最近の輸入なると共に「ニウギニア」には船鼠又は家鼠と著しく異なる他の種類の鼠ありて、此鼠は輸入したるものより生じたるものと解するを得ず。此鼠は部分的乍ら又濠洲に棲息す。此種類に屬するものに古き種屬の Hydromyinae ありて、内 Hoydromys は最も周知の種屬にして大なる種屬を成し、河川及び池沼の邊りに産し、水中生活を好む。Hydromys の類縁にして、又濠洲及びアル諸島及びケ諸島に見る一種は「ニウギニア」に廣く分布す。又本島の山岳地帯に主として發見せらるる他の種類の鼠は Mallomys 種に屬し、鼠中の大鼠にして、兎大に達するものあり。雪山々脈に (Horentzimys) と稱せらるる源泉鼠あり、恐らく濠洲に棲息する同一種類と類縁のものなるべし。

「ニウギニア」の哺乳動物は更に二種の代表者を以て、其の特徴を示し居れるが、我等は此種を「古き種類」と看做す、即ち單孔類 (Monotremes) と有袋類となり。第一の種類は、今日濠洲地方に限られ、此種類の内には、「かものはし」(「ニウギニア」には棲息せず) 及び「はりもぐら」あり、後者は二種 (Echidna 及び Laglossus) ありて種々の種類を有し廣く「ニウギニア」に分布す。又アル諸島にも亦一種の「はりもぐら」あり、「サラワッチ」にも亦一種の Zaglossus 發見せらる。

有袋類は曾つては北半球に於て一大繁殖を遂げたるも、今日僅かに濠洲地域及び南米にのみ之れを見ると共に一種の有袋動物「ふくろねずみ」は尙ほ北米に産す。「ニウギニア」種は豫期の通り、濠洲の種類と關係を有し、「ニウギニア」には肉食有袋類 (濠洲にも亦産する袋貂の如き) 竝に蟲食、雜食有袋類あり、其の中に種々の種類の Perameles 屬あり。又草木を食する種類も棲息し、之れは「クス・クス」種袋鼠 (Phalanger) と名付くるものなるが、西はセレベス島、サンギル及びタラウト諸島にまで産す。「ハルマヘラ」にも亦發見せらるる袋鼠、及び濠洲を除いて又アル及ビケー諸島に棲息する「カンガル」あり。又ミソール島にも亦一種の「カンガル」發見せられ、「ニウギニア」に於ても亦「木登りカンガル」(Dendrolagus) 存在することは特筆の要あり。

鳥禽 鳥禽は蝙蝠と同じく海洋の爲め其の分布を妨げられざるべしと考ふべく、多くの種類の鳥禽は全然阻止されざるを常とし、脛の長さ水鳥所謂しぎの類、鴨及び猛禽の中には、極めて廣く分布する種類あり。又多くの鳥禽は、主として北半球より飛來する脛の長さ水鳥の如く、及び濠洲にて孵化し冬期南半球より「ニウギニア」に飛來する蜜食鳥 Merops amatus の如く、一氣に「ニウギニア」に飛來す。

廣き分布地域を有する此鳥に次いで、明らかに海洋に依り其の分布を妨げらるる他の種類の鳥あり。即ち「ニウギニア」に於ても、濠洲に於ても、セレベス島以西に達せざる啄木鳥なり。「ニウギニア」の鬱蒼たる森林より見て此啄木鳥を産せざることは實に不思議の感を抱かしむ。即ち此鳥の進化及び分布は、濠洲大陸が既に分離したる後に生じたること明かなり。鷄類の内には Phasianidae は棲息せざるもの、如し、但しロレンツ氏が雪山々脈にて發見したる鷄鳩に似たる鳥 (Onuphasis Monorchonyx) を除く。然し此鳥は尙ほ唯

だ一種のみ世に知らる。之に反し「ニューギニア」には濠洲と同じく、例へばツカックリ (Magpoidae) の如き更に西方にも棲息するも、當地にて廣く分布せる他の種類の鶏を産す。此鳥は一種獨特の性質を有し、其の卵を孵化せずして、一所に集めたる木の葉の中に隠し置き、枯れたる葉の温みに依り孵化せしむるなり。「ニューギニア」の原始林中にて屢々此種の孵化叢を見る。

「ニューギニア」は特に鸚鵡の種類豊富にして、濠洲にも亦多く又は類縁關係にあり。他の種類例へば裸出しの赤き頬を有する大なる黒き「クロオウム」 (Prosciaer 又は Microglossus) の如き「ニューギニア」に限らる。又鳩は多く棲息し居れるが「ニューギニア」の代表と稱するは世人周知の王冠鳩なり。又魚狗 (カワセミ) は數多く、特に森の魚狗中に獨特の種類あり、Clytocyx rex は廣き鈍角の嘴を有し、極めて獨特の外貌を呈す。

「ニューギニア」の多くの鳴禽の中には極樂鳥最も有名にして、一〇〇種以上の世々周知の種類の中、大部分は「ニューギニア」に産し、唯一小部分のみ北部濠洲に棲息し、一、二種のみは「ニューギニア」の西方に散在する諸島に於て「ハルマヘラ」「バチャン」及び「オビ」にまで分布す。

或る種類の極樂鳥は「ニューギニア」にのみ限られたる棲息地を有し、他のものは全島に分布するも、其の棲息地の異なるに従ひ差異を示すを以て、極樂鳥は地理的小部分に分類することを得。濠洲の鳴禽の代表的の種族は蜜食鳥 (Meliphagidae) なるが、此種類は多く「ニューギニア」にも棲息し居れり。

最後に「ニューギニア」特有の鳥の一種を尙ほ紹介せん。即ち濠洲のエミューの類縁にして、ニューギニア全島、北部濠洲及び西はセラム島まで分布し居れる火喰鳥なるが、「ニューギニア」にては種々の種類ありて、主として地方化したるものなり。

爬蟲類

蜥蜴類の内にはチチャック (小形ヤモリ) とゲッコ (大形ヤモリ) とありて、群島西部に於ける以上に多くの種類あり、又大蜥蜴 (所謂熱帶産大蜥蜴) も存在す。頸輪を有する蜥蜴 (C. lamydosaurus kirgi) は、單に「ニューギニア」及び濠洲にのみ知らるゝ所にして、太き刺を有する皮膚にて一見識別し得る Tribolonotus 種は「ニューギニア」に限らる。淡水龜の内には濠洲種に屬する多くの種類あり。Caretochelys insculpta は南方「ニューギニア」の河川に産する大龜にして、其の最も近き類縁は第三紀時代歐洲に棲息せるが、即ち爬蟲類中の殘骸の一標本なり。

蘭印の鰐魚 (Crocodylus Porosus) は「ニューギニア」の河川、湖沼に常見する所なり。蛇の内には無毒のバイソン (蟒蛇)、水蛇 Acrochordus Javanicus Dendrophis 屬の樹蛇、我がリングスラング (頸輪を有する歐洲産無毒蛇) の類縁たる Tropidonotus 種等六に餘る。有毒蛇の内には「ニューギニア」には眼鏡蛇棲息せざるも、種々の類縁關係の種類 (Glyphodon, Toxicocalamus, Utricalamus, Apistocalamus) 等は「ニューギニア」及び隣邊にのみ限り棲息す。Viperidae (蝮蛇) の種屬は「ニューギニア」に全然存在せず。

兩棲類 元來普通蛙 (Ranidae) は極めて稀にして、「ニューギニア」及びヨーク岬は普通蛙の分布地の東境を爲す。之に反し Hylidae (雨蛙) は「ニューギニア」並びに濠洲に多く、蟾蜍 (ヒキガヘル) 中特に Brevicipetidae は獨特の種類に富む。

魚類 純粹の淡水魚は「ニューギニア」は濠洲と同じく其の種類少く、元來淡水魚と看做し得るは「クーンランド」及び「ディクトール」河に産する Selenopages leichhardti のみなり。M. lanotaerinae は海に棲息する Atherinidae の一屬を成し、濠洲地域にては淡水魚と成り、「ニューギニア」には多數棲息す。之れと同じく特に海に棲息する種屬の Priacanthidae の或るものは湖沼に入りて、濠洲及び「ニューギニア」の淡水に住む。

獨特の種類に變化せり。其の外「ニウギニア」の淡水には主として海より移住せる魚類あり。

昆蟲類 「ニウギニア」の動物の泰西的要素は他の動物にも兆を見るとは云へ、此要素は昆蟲に於て著しく現はるるを以て、生態學上の諸要素は一役を演じ得るなり。昆蟲は大抵、暖き且つ濕潤なる氣候下に於て盛んなる植物の繁殖中に最良の成長條件を見出すを以て、「ニウギニア」は非常に乾燥するも、一部又寒冷なる濠洲よりも、遙かに有利なる生存状態をなす。其の外、此大島の昆蟲界は極めて形態に富むを以て、此僅かの紙面にては到底詳述するを得ず。

甲殻類 濠洲種の類縁たる「ゾリガに」(Parastacidae)が「ニウギニア」「アルト」諸島及び「ミソール」島にも棲息することは特筆に値す。此蟹は更に西方各島には知られざる所なり。淡水えび(Palaemonidae)は蘭印群島各地に於ける如く、「ニウギニア」にも存在す。

軟體動物 蝸牛の内にバイブの如き口を有する色とりどりの貝はPapua屬に屬し、本群島の西部に種類の種類を有するAmphitromus屬は當地には稀なり。Amputaliaは「ニウギニア」にも、濠洲にも發見せられず、本群島の淡水の何處にも發見せらるゝ如く、Melania屬は「ニウギニア」に豊富に棲息す。

淡水貽貝は本群島に於ては單に大スンダ列島及び「ニウギニア」にのみ存在し、モルツケン群島には之れを缺く。スンダの種類はアジア大陸の夫れと類縁關係を有するも、「ニウギニア」の夫れと全然異なり、且つ濠洲種に一致す。

海の動物

前述せる如く「ニウギニア」の海産動物は西方に存在する諸島の夫れと大なる差異を示さず。海中にては之等動物は他の妨げなく弘く分布し得るも、唯だ海岸に棲む動物は遠海動物と全然異なり、二、三の特質を

示すも亦海岸には固有の動物(珊瑚蟲、水生小動物等)あり、主として自由に游泳する幼蟲にして、海岸より海岸へ移動するものなり。「ニウギニア」の海産動物は従つて獨特の性質を示さずして、大なる熱帶性蘭印太平洋動物地域の一部を爲す。暗礁及び海濱、大海及び灣は右地域の他の部分に於ける同一の環境と何等差異を示さず。(終り)

447
69

昭和十九年五月二十五日 印刷
昭和十九年五月三十日 發行

頒價金 十三錢
特別行爲稅相當額 三錢
合計 金 十六錢

財團法人 南洋經濟研究所

編纂兼 代表者 小 西 干 比 古

印刷者 鮎 澤 二 郎

長野縣岡谷市橋原

印刷所 合名 鮎 澤 印刷所

東京都赤坂區表町四丁目一番地

發行所 財團 南洋經濟研究所出版部

振替貯金口座東京一四五八二二番

終

